



いなほ

稲積神社社報

第19号

平成15年 5月 3日発行



西鳥居燈籠 奉納 名取増昭様



詳細は社務所にお尋ね下さい。

御石取りのご神徳

病氣平癒は床下に。

運氣興隆・方災除け・旅行安全
はお守り袋に入れて身にお付け
下さい。

土地清め・方位除けは東西南北
の四隅に。

新築・増改築のお清めは敷地中
心に。

家内安全・商運繁栄祈願は玄関
に。

御砂取りのご神徳

「わかえ」とは、神殿の「神御柱」
を築き固めている、御砂・御石の
総称であります。
「わかえ」信仰の御砂・御石取
りで大神様のご神徳・ご神縁を
お授かり下さい。

御砂・御石取りの由来

「わかえ」信仰



所感

宮司 根津泰昇

三月二十日米・英連合軍対イラクの戦争が開戦されました。理由は如何にせよ、原爆投下国、敗戦経験の日本国民にしては望まない事態になってしまいました。ブッシュ・フセイン両大統領共、開戦後「神の導きによって勝利を手中にする」と豪語していました。参戦国の営利目的のために「神」の御神徳があるはずはないでしょう。御神徳の本議を尊び、神様を崇敬する人々にとつては疑問に感ずる言葉であったと思います。

今年の高校受験日の当日、参拝に訪れた仲間の一人だけが参拝せず後ろで立止まっています。その子が私に「お参りするとは絶対合格できませんか」と質問しました。私は「お参りする」ということは、あなたの気持ちを浄化し静心することになります。又今迄一生懸命受験勉強してきた成果を發揮できるようなお願いです。その努力がちょっとのつまづきにより、頭の中が真白になってしまったら大変でしょう。と説明してあげましたらその子は「ありがとうございます」と言い受験会場へと向いました。

合格発表の数日後、お礼参りに母親と一緒に訪れ、手を合している姿には幸福感と美しさを感ずりました。

目的達成を目指し、「努力」を重ねることにより成就の御神徳が授かるのです。達成されたならば、次の目標に向い「努力」を重ねる。この繰り返し「蘇り信仰」であり、神様に願う基本なのです。

「神力」「御神徳」は尊い生命を奪い合う戦争に神様が与える訳がございません。戦争は互いの言分を正当化するために力だねじ伏せ合う欲だけの戦いだからです。

日本は不況と言えども平和です。大東亜戦争で祖国のため

めに生命を落し靖国神社に眠る英霊、戦後復興に渾身の努力を重ねた先人、高度成長期を支えた「金の卵」等このように其の時代、時代を辛苦に耐え、しっかりと地に足をつけ營なんだ先人達が平和な国を築き上げてくれたのです。そして現在不況下のもと堪えに堪忍んでいる現代人が平和な日本を維持しているということでしょう。

千家尊福公の歌に
年ごとに咲くや
吉野の桜花
木を割りて見よ
花のあり力を

目に見える桜は美しいもので私等の目を楽ませてください。この桜花も、大地の奥に伸張する「根」の働きがあればこそ、桜木の生命が育み続けるのです。私達も「根」である先人等を尊び、生きる喜びを感ずる信仰・祈りを捧げて人類の平和を願いましょう。

祭典行事歴

(五月〜十一月)

毎月 一日・月始祭

三日 月次祭
十五日 神恩感謝祭

古神札

五月二日 献上祭

正ノ木大祭前夜祭

三日 正ノ木例大祭

四日 大祭特別祈願祭

五日 三ノ祭

正ノ木大祭終了祭

六月 三十日 夏越 大祓

八月 富士ヶ嶺開拓祭

十月一日 金刀比羅祭

十一月十六日〜十八日 甲府伊勢講千社まいるの旅

神話と伝統の里高千穂峽と話題の黒川温泉

毎月一日、三日、十五日には

神社にお参り

しましょう!!

御日供献饌講について

当神社では毎朝大神様に神饌(米・酒・乾物・野菜・果物・塩・水)をお供えして祭典を奉仕しております。

このおまつりを「御日供祭」と称し、御日供祭にお供えする神饌奉献者の集まりを御日供献饌講と申します。

御日供献饌講は、毎年、一月一日より十二月三十一日迄を区切りとして、毎朝講員の皆様の繁栄をお祈り申し上げ一年間お護りいただく御礼として順次大神様に神饌をお供えして参ります。

又、御奉献いただいた講員の方々に、年一度お集り願って大神様に益々の御加護を祈念すべく御日供献饌講々社祭を斉行致します。

この御日供献饌講の初穂料は一口三千円です。

御希望の方は御参拝の折に受付へお申し出下さい。

祝祭日には

国旗を揚げましょう!!
神社社務所でも頒布しております。

国旗セット

(国旗、竿、金色冠頭)

(取付金具、収納袋付)

頒布価格 一、五〇〇円

日本の神話

偉大なご先祖が遺してくれ
た「古事記神代」日本の神話

天地創造の原理から宇宙の真
理が語られ、日本の国生みか
ら神々の誕生など奥深い広が
りをもって語られている書物
です。

この混沌の時代を切り開き
自信と誇りをもって明るく幸
せに生きるために、そして日
本の国そのものが明き清き直
き誠の国に新生するために、
分り易い「日本の神話」を今
号より連載します。子供達に
も分り易くし御家族で理解を
深めていただければ幸いです。

一、大宇宙のはじまり(上)

昔むかし、そのまた昔の大
むかしのことです。

天地はまきりあつたようで、
まだ、なにもなく、なにも見
えない、ただうすくらしいもや
もやとしたところが広くひろく、
つづいていました。

その上の、高くどこまでも
高いところに、ふかくすみき
った天穹が広がってありました。
そこは高天原というところ
でした。

その高天原に、天之御中主

神がお姿をあらわしました。

天之御中主神はかぎりなく
美しく、かぎりない力をそなえ、
かぎりない知恵と慈愛をもつ
ておられました。

しかし、そのお姿は、だれ
ひとり見ることはできません
でした。

なぜでしょう。

それは、天之御中主神はか
ぎりなく大らかで大きいから
です。

かぎりがなく大きいという
ことは、どこにでも、あらゆ
るところ、いたるところに満
ちているということです。

目にふれることができるとい
うのは、かぎりがあるとい
うことですから。

つぎに、高御産巢日神と神
産巢日神があらわれました。

高御産巢日も神産巢日も天
之御中主神がお姿をかえて天
之御中主とひとつになって、
宇宙のすべてのものを生み出
すためにあらわれた神なのです。

高御産巢日は、はるか天
から下へ下へと大きく広がっ
てあらわれました。

すべてのものを生みだす知
恵の光を放ちながら。

神産巢日は、ふかくくらしい
もやもやとした底のほうから
四方へ広がって上がつてきま

した。

世の中のすべてのものをそ
だてる、やさしい愛のぬくも
りを放ちながら。

そして、いつのまにか高御
産巢日と神産巢日の神の心は
とけあい、ひとつになりました。

そのとたんに、ぱつと、も
やもやとしたところにさけ目
ができました。

「ああ、すばらしいありがとう」
天之御中主がいられると、天
之御中主の発する光が、その
さけ目からふりそいで、天
と地のさかいができました。

天と地がわかれたというだ
けで、まだ空は空で、もやも
やむくむくと雲は低くおりて、
下のごちやごちやしたものの
ところへ遊びにいこうとして
います。

高御産巢日、神産巢日に、
天之御中主の思いがひびいて
聞こえました。

「あなた方はこれからも私
と心をひとつにして、天地(宇
宙)を美しくとのえ、つく
つてください」

二人の神は、「よろこんで」
と、うなずきました。

高御産巢日も神産巢日も、
あまりにも大らかで大きいので、
だれの目からも見ることはで
きません。

天之御中主も、その分身で
ある高御産巢日も神産巢日も、
かぎりなく大きいのですから、
小さな自分などありません。
自分の事など少しも考えません。

なにも声にだして話しあわ
なくても、お心はひとつです
から、声のない声で、風が吹
けば草木の葉がそよよように、
感じあいわかりあうのです。

天之御中主はかぎりない力
をもっていきますから、ときに
はさまざまに姿も変えてあら
われます。

昼間はあたたかな光で輝き、
夜は黄いろく光りくらやみを
照らします。

そして、すべてのものを生
みだし育て、かぎりなくつづ
いていく世を願う天之御中主
の目に見えない光が、高天原
からとどきはじめ天地をはじ
まろうとしていました。

天地を照らす
天之御中主神の御光



職員紹介



権禰宜
根津 佳明

私は今まで島根県の出雲大
社に三年、埼玉県の氷川神社
に二年御奉仕申し上げ、本年
四月一日を持ちまして稲積神
社の権禰宜を拝命させて頂き
ました。このように沢山の御
縁を戴き貴重な経験が出来ま
したことを神明に心より感謝
申し上げます。今年「羊・
未・ひつじ年」でありますが、
中国では「羊は善なり」と言
う言葉が残っています。私も
この年を「善の年」と捉え良
き年の始まりとなるよう一生
懸命奉仕致します。また「未」
は生い繁る大木を表す象形文
字と言われています。しかし
大木を支えているのは「根」
であり、「貴重な物」を「根
幹」と言うように根があつて
大木が雄々しく立っていられ
るわけです。「神」「日本」
と言う大木を支える「根」で
ある自覚を持ち、これから皆
様と共に「稲積神社」という
大木を支えてゆく「根」の一
員として神明奉仕に励む所存
でございます。御指導ご鞭撻
のほど宜しくお願い致します。

崇敬会の御案内

当社崇敬会は、稲荷大神様の御神威のもとに、すぐれた日本の伝統を守り、健全なる社会生活を願い、稲積神社の維持発展に寄与することを目的とする会でございます。

当社を崇敬し、本会の趣旨に御賛同の方はどなたでも入会できます。御参拝の折、申込書に所要事項を記入の上、会費を添えて崇敬会受付にお申し込み下さい。

尚郵送でも受け付けますので、当社崇敬会宛郵送願います。崇敬会会員台帳に登録し会員証をお送りいたします。

◎会費

- 年会費 協賛会員 一万円
- 維持会員 五千円
- 正会員 三千円

◎会員の待遇

- 一、日供祭に日々のご安泰をご祈願いたします。
- 一、誕生祭を廻行いたします。
- 一、祭典のご案内をいたします。

一、社報をお送りいたします。

以上の趣旨に御賛同の上、多くの方々に御入会いただき、御神徳を昂め、皆様と共に明

るい社会づくりに努めて参りたいと存じますので、是非御入会下さいます様御案内申し上げます。

一 案内

甲府伊勢講干社参りの集い

神話と伝統の里、高千穂峡と話題の黒川温泉

天岩戸神社参拝、高千穂峡、宇佐神宮参拝、湯布院散策、阿蘇山展望

「天岩戸神社」ご参拝の際には古来伝承される、天照大神と天鈿女命の神話をもとにした神楽を鑑賞いただけます。また大分では八幡神社の総本社「宇佐神宮」を参拝いただき、湯布院散策、未だ活動する阿蘇の噴火口見学、ご宿泊は大部分の名湯「別府温泉」、「日本一の湯めぐり温泉郷」として話題沸騰中の「黒川温泉」にてゆっくりおくつろぎいただけます。

この機会に多数ご参加いただけますようご案内申し上げます。

日時

平成十五年十一月十六日(日) 十八日(火) 二泊三日 旅行代金 七九、〇〇〇円

募集人員 一二〇名

◎行 程 ◎

11/16(日)	甲府各地 <small>4:00</small> —— (中央道・首都高) —— 羽田空港 —— 熊本空港 —— 高千穂峡(昼食～散策) —— 天岩戸神社(正式参拝～神楽) —— 別府温泉(泊) 17:30
11/17(月)	別府温泉 —— 海産物お買物 —— 宇佐神宮(参拝) —— 宇佐(昼食) —— 湯布院散策 —— 黒川温泉(泊) 15:30 因幡神樂の黒川温泉にて高ぐりをお楽しみいただけます。
11/18(火)	黒川温泉 —— 阿蘇山・草千里(昼食) —— 熊本空港 —— 羽田空港 —— 首都高速～中央高速 —— 甲府各地 20:00

□ご宿泊予定ホテル
11/16(日) 別府温泉 別府温泉ホテル白菊 ☎0977-21-2111
11/17(月) 黒川温泉 湯峡の響き 優彩 ☎0967-44-0111

奉 納

1 バリアフリー参道

歩行者用参道が完成しました。今まで玉砂利の為に車いすや乳母車の通行が困難でしたが、太田町の石坂石材石坂正夫様が敷石を、工事を石土志村礼二様が夫々奉納されこの度完成しました。

2 天満天神社御幕

太田町 浅利 利雄様

◎西鳥居に一对の燈籠

諏訪郡富士見町

名取 増昭様 (今号表紙に写真掲載)



「厄」を祓う 鎮守の森

神社にお参りすると心が清しくなります。鳥居をくぐり手水舎にて手と口をすすぎご神前に向かいます。私たち日本人は、正月を始め節目には必ず神社にお参りし、神さまに守られ導かれていることへの感謝や、これからの健康などを祈念してきました。その姿は今日でも変わらず、全国の神社では多くの参拝者で賑わっています。

日々の暮らしの中には様々な厄災があることでしょう。それは今も昔も同じですが、とりわけ、今日では、交通事故や現代社会の歪みから来る事故や事件など、「厄」の範囲も広がっているのでしょうか。心の荒廃など精神を病む人たちが増えつつありますが、身体への「厄」を祓うとともに心の環境を整える場所もまた、鎮守の森の癒しの空間なので

命継ぐ食もの衣もの住むいへも 稲荷の神の恵みなりけり

稲積神社

甲府市太田町公園内鎮座
電話 (055) 233-5573
FAX (055) 226-0787